

巻 頭 言

『異文化経営研究』第10号発刊にあたって

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第10号を発行することができ、ありがたい限りである。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究ノート二篇に加えて、招聘論文一篇と研究会の講演録二篇を掲載している。執筆者や編集者をはじめ、発行に至るまで多くの方々に尽力いただいた。心より御礼を申し上げたい。

設立10周年を迎えた2013年には、新たに学会賞を創設し、優秀な研究に賞を授与することができた。対象は、著書と論文と自由論題報告であるが、第一回の学会賞には、学会誌『異文化経営研究』に掲載された優れた論文一篇と研究会で白熱した議論を呼んだ自由論題報告のひとつが選ばれた。詳細は後述のとおりである。

さて本学会はこれまで東京を中心として活動を行ってきたが、2013年3月には、地域部会の第一弾として九州部会が設立され、設立総会と第一回研究会が行われた。2014年にはさらに関西部会を設立する予定である。また、英語による研究報告を行う国際セッション(国際部会)の第一回研究会が2013年12月に行われた。このセッションは司会も発表もコメントも質疑もすべて英語で行うセッションであり、今後、定期的開催したいと考えている。このように地域部会と国際部会が展開されることになったため、2014年より、これまで行ってきた東京における研究会を、「研究大会」という名称に変更し、大会としての位置づけを明確にする予定である。

昨年末の新政権発足前後から、日本経済にも明るい兆しが見えはじめ、さらには女性の活用においても、政府が経済界に対して積極的な働きかけをした結果、徐々に進展がみられていることは喜ばしい。それは日本がダイバーシティを活用し、異なる文化から生まれるエネルギーを活力の源とする道に通ずるからである。

これからも、異文化経営を通じて世界に貢献することができるよう、会員の皆様とともに歩んでいきたいと切に願っている。

今後ともご支援を賜りたく、お願い申し上げます次第である。

2013年12月
異文化経営学会 会長
馬 越 恵 美 子